

旅行会社は「安全対策のプロ」に 事前登録システム「たびレジ」の積極活用を！

JATAは昨年に引き続き、7月1日

の「旅の安全の日」に合わせ、業界と一般消費者に向けて安全に対する意識を高めてもらうため、メッセージを発信します。国際的なテロや自然災害など、事件・事故に備えて事前に十分な対応を図ることも「旅の安全」を確保するための大きな課題です。海外における日本人の安全対策や保護が重要な業務の一つである外務省領事局の能化正樹局長に、旅行の魅力や海外での安全などについて越智良典JATA事務局長が伺いました。



領事局の能化局長（左）と、お話を聞かせていただいた越智 JATA 事務局長

人生にチャンスをもたらす 海外旅行

越智 最初に外国を訪れることの意味合いなどについて、ご自身の経験なども踏まえて、お考えをお聞かせください。

能化 海外での最初の赴任地はフランスでしたが、初めて行った海外は米国で、大学時代に1カ月ほど滞在しました。とても色々な出会いがあって、外国に関心を持つ非常に大きな経験になりました。滞在していたニューハンプシャーは、当

時、米大統領選挙で最初の予備選が行われていた州で、大統領選に関連したタウンミーティングに参加して、大統領候補の方と議論するという興味深い体験もさせていただきました。その大統領候補がハワード・ベイカー上院議員で、後年、駐日大使として赴任された際に、再会する機会もありました。人生に貴重なチャンスをもたらす海外旅行の意義を実感しました。

現地の言葉を使って深まる 人間関係

越智 エチオピアとジブチで海賊対策が

進められていた時期に、局長は在エチオピア日本大使館兼在ジブチ日本大使館の大使に就任されたわけですね。

能化 日本の自衛隊も参加して、海賊に対処する国際協力をやることになったのですが、ジブチには外務省の常駐拠点がなかったため、私が初代の常駐大使として派遣されました。

越智 エチオピアへは、現在、日本からの直行便も運航されていますが、日本からも多くの旅行者がエチオピアへ行かないと、路線の維持も困難になります。世界遺産も沢山あって歴史や文化の魅力が多彩な国であることを、もっと紹介していきたいと思います。

能化 アフリカでは、固有の文字が限られていて、今でも英語やフランス語が文字として使われる国が多いのですが、エチオピアの場合は、かなり昔から文字を持っていました。現在の公用語は、アムハラ語と呼ばれていますが、その独自の文字文化は全国に広がっています。

越智 現在は、インターネットを通じて自分で見たつもりになってしまい、海外へ出かけるための一歩を踏み出さないケースが増えているようです。

能化 インターネットだと触覚・味覚・嗅覚には伝わりません。アフリカは色彩が豊かで大変きれいに見えますが、実際に行かないと、熱気や湿気、独特の臭いなど五感に迫ってくるものは分かりません。現地の人たちと交流する中でしか得られないものも多く、海外旅行はそうした異文化交流を深める上で、かけがえのないものだと思います。また、地元の言語にどのくらい関われるかも、交流を深める重要なポイントです。ジブチに滞在していた時、公用語はアラビア語とフランス語以外に、ソマリ語とアファール語という2つの現地部族の言語があり、地方などへ行った時、現地の言葉を使うかわからないかで人間関係の深まり方が全然違いました。

越智 言葉が上手いか下手かではなく、相手に関心を持っていると伝わることも大事なポイントになりそうです。

能化 例えば、フランス語で3分間スピーチしても、現地語の通訳では1分くらいで終わると、ちゃんと伝わっていないのかなという気がします。少しでもいから現地語を使えば、英語やフランス語だけの時と全く異なる結果になると思っています。

命綱となる旅レジの活用を！

越智 本題である海外での安全については、どのようにお考えになりますか。旅

7月1日は「旅の安全の日」



外務省領事局局长 能化正樹 (のうけ・まさき) 氏

1959年生まれ。兵庫県出身。1982年東京大学法学部卒、同年外務省入省。2003年アジア大洋州局大洋州課長、2006年在フランス大使館公使、2009年在エチオピア日本大使館兼在ジブチ日本大使館大使、2011年内閣情報調査室次長などを経て、2015年10月から現職

行会社も「安心安全」の確保に万全を期していますが、「安心安全」には絶対がありません。

能化 国民の皆さんには、是非、海外旅行に出かけていただきたいと思いますが、先進国でもテロなど様々な危険が存在するという厳しい現実もあります。日本人が犠牲になるケースも出てきています。まずは海外には日本の主権が及ばないという基本認識を持っていただくことが必要です。その上で、予防と対処について考えていただかなければなりません。

越智 予防と対処について、具体的に教えていただけますか。

能化 予防は危い場所や時期に行かない・危険な行動をとらないということ、対処は何かあった時にどうするかということ、

ことで、外務省の海外安全ホームページに国や地域ごとの注意事項や基本的な対処方法が示されています。そして、最後の命綱となるのは連絡手段の確保ですが、これについては、事前に連絡先を登録する外務省のシステム「たびレジ」を活用していただきたいと思っています。

たとえば、3月、ブリュッセルのテロ事件の際には、登録いただいていた方には、5回にわたり事件の状況と注意事項をメールで連絡いたしました。旅行者自身が安全確保に努めることこそ基本と考えていますけれども、旅行会社のサポートによって安全度を高めたり、旅行商品に付加価値を与えたり、ということも出来るのではないのでしょうか。旅行会社には、安全対策のプロになっていただきたいと望んでいます。

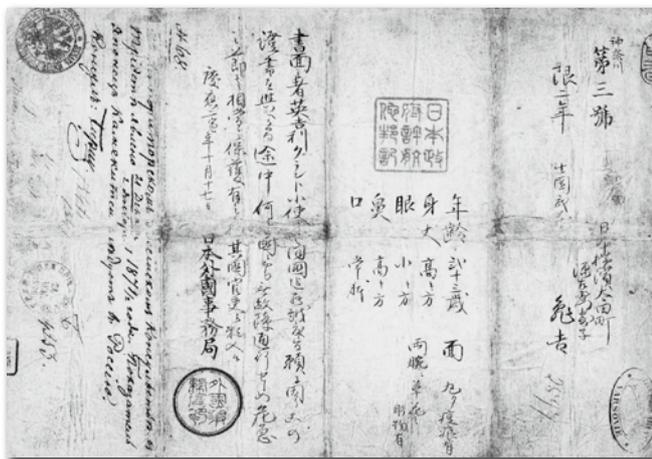
越智 旅行業界と外務省の連携が深まったのは、第2次イラク戦争が起きた2003年でした。「安全対策のプロになることが旅行会社の価値になる時代だ」と言われて、外務省やリスク会社と一緒にフレームワークの構築に取り組みました。JATAでは海外旅行安心安全部会を発足し、安全確認や事件後の現地調査、安全対策を共有化してきました。現在は業界全体で旅

行安全マネージメントの定着化に取り組んでいます。企画力、斡旋力と安全対策が私達の生命線だと啓蒙中です。

能化 ホテルやルートを選択する時に外務省の海外安全情報を参考にして安全な旅行を企画していただき、万一、事件・事故が起きた場合には、外務省・大使館などと連携して、安全確認も一緒にやっていただきたいと思います。先ほどご紹介した「たびレジ」については、海外旅行関連業者向けに、各業者が扱う海外渡航者のデータを一括で登録することができる「たびレジ連携インターフェイス」の提供を開始しておりますので、このような取り組みを積極的にご活用いた

だき、連携を進めていきたいと思えます。また、パリやブリュッセルにおいてテロ事件が発生したように、テロは先進国を含むあらゆる地で発生する可能性があります。日本人・日本権益が標的となり、テロの被害に遭うおそれもあります。またテロ以外にも、一般犯罪や感染症など、場所によって様々なリスクがあり、それぞれの場所の事情を踏まえた適切な安全対策が必要です。ですから、旅行会社におかれては、各社がしっかりと安全対策を実施いただき、各社の安全対策が一つの「売り」になるような雰囲気業界全体で形成していただきたいと思えます。

現存する日本最古のパスポート



2016年は「パスポート150周年」

黒船来航から13年後の慶応2年(1866年)4月、江戸幕府が日本人海外渡航の禁制を解き、「海外諸国へ向後学科修行又は商業のため相越度志願の者」には願出があれば、事情をただした上で「御免之印章」を発給するという布告を出しました。今年は、現在のパスポートにつながる海外渡航文書の発給事務開始から150周年を迎えます。慶応2年10月に発行された日本最初のパスポートは、総勢18人の曲芸団「日本帝国一座」を率いてパリ万国博覧会に向かった隅田川波五郎一行に与えられました。写真は、曲芸団のひとり横浜市在住の「亀吉」に発給された第3号パスポートで、現存する日本最古のものとして、外務省外交史料館に所蔵されています。